



コース
8

天王祭を支える町内とご祭神



- スタート
↓760m
- ①道標 (津島神社参宮道)
↓50m
 - ②斎竹
↓70m
 - ③町家
↓100m
 - ④⑤⑥斎竹
↓190m
 - ⑦瑞泉寺の稚児門
↓200m
 - ⑧車河戸
↓120m
 - ⑨児が歩くルート
↓20m
 - ⑩⑪斎竹
↓670m
 - ⑫津島神社楼門
↓500m
 - ⑬上切の井戸
↓100m
 - ⑭市神社
↓120m
- 観光交流センター
ゴール
全長約 2900 m

尾張津島天王祭は、約600年の歴史がある津島神社の祭礼です。7月第4土曜日に宵祭、その翌日に朝祭が行われ、神社の神事を含めると90日間にわたって祭行事が行われます。そのうちの車楽舟行事とは、津島五車と呼ばれる米之座・堤下（とうげ）・筏場・今市場・下構、そして市江を加えた6艘の祭舟で展開される行事のことです。祭舟は「車楽舟（だんじりぶね）」と呼ばれます。宵祭は津島五車が1年の日数の数の提灯を半球状に形作る巻藁舟、翌朝の朝祭は能の演目を表した置物を屋台に飾る車楽舟に模様替えして、市江車を先頭に6艘が漕ぎ進みます。「尾張津島天王祭の車楽舟行事」は国の無形民俗文化財に指定されており、平成28年12月1日に「山・鉾・屋台行事」の一つとしてユネスコの無形文化遺産に登録されました。

作成：小路めぐりマップ策定部
大橋忠彦 佐藤恵 耕井敏子
恒川一三 岩崎勝明 橋本建夫
村松勇治 三輪直樹



⑫ 津島神社楼門

児打廻し、神輿渡御・還御の時に楼門をぐります。



① 道標「津島神社参宮道」

尾張津島天王祭は本町筋（津島街道）沿いのまち、旧津島五ヶ村によって行われてきた祭です。かつての本町筋は津島神社の参詣者や旅人でにぎわいました。津島神社参宮道を示す石碑で、ここを基点に津島街道は上下に分岐します。

③ 町家



「児門」のある町家です。尾張津島天王祭に祭を担う各町内からおんさんが出ます。「神の子」おんさんが祭の時にでるときに使われるのが児門です。この児門は筏場車の児が通る児門です。

⑦ 瑞泉寺の稚児門



瑞泉寺にある門で、「稚児門」の扁額がかかっています。江戸時代中期まで寺の南隣まで車河戸が広がっていて、この門の辺りから小船に乗り祭礼の本船に向かったことから名付けられたと伝えられているそうです。

⑨ 児が歩くルート

尾張津島天王祭の時に津島五車の各車屋さんから車河戸へ、昔からのしきたりに沿って異なる道を通って向かいます。



⑬ 上切の井戸



上切と呼ばれた地域（現在の本町1丁目辺り）にある共同井戸でした。天王祭の舟や屋台を連結するわら縄を編む際、この井戸の水が打ち水に使用されていました。

オススメ

天王祭を知りたい人



② 斎竹

天王祭時に津島五ヶ村を清める斎竹が町境に建てられます。これは「堤下」「筏場」の境の斎竹です。

④⑤⑥ 斎竹

天王祭時に津島五ヶ村を清める斎竹が町境に建てられます。これは「筏場」「今市場」「下構」の境の斎竹です。



⑧ 車河戸

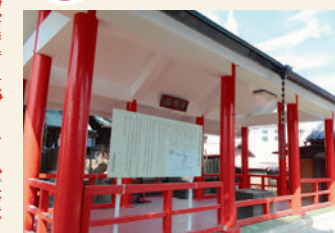
天王川公園の東側にある車河戸という入り江は、祭河戸とも呼ばれ、尾張津島天王祭の船支度や宵祭・朝祭の時に神社の赤舟のお迎えを待つ場所などまさしく祭りの舞台となる場所です。普段は天王祭の舟に組まれる屋形と船が置かれています。



⑩⑪ 斎竹

昔から天王祭時に津島五ヶ村を清めるため町境に斎竹が建てられます。いつの間にか「車河戸」にも斎竹が建てられるようになりました。車楽舟の準備を行う場所を清浄に保つ意味で建てることになったのでしょうか。

⑭ 市神社



津島神社の境外末社。尾張津島天王祭の神事の中で重要な「神葎放流神事」の時に神職が立神祭を行う場所です。神葎放流神事は朝祭が終わった日の深夜、神職のみで密やかに行われ、まちの人々はこの日は早く寝るようにと伝えられています。現在社務所は米車のお囃子の練習場所等にも使用されています。